

防除調査で捕獲されたミシシippアカ
ミミガメ
――明石市魚住町清水で



明石市内の河川やため池で繁殖し、在来種の生態系を脅かしているミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)を捕獲する防除調査が、市西部の魚住地域を流れる瀬戸川流域で行われている。

市や環境保全団体など計9団体でつくる「明石市ミシシippアカミミガメ対策協議会」が実施。27日から、

ミドリガメ

た調査では、捕えた20匹中、12匹がミシシippアカミミガメだった。28日午前に魚住町清水の同川上流で引き上げたかごからも、9匹中4匹のミシシippアカミミガメを確認。生息区域が流域の広範囲に及んでいる実態が分かった。

昨年、市が大久保町谷八木の谷八木川流域で行った防除調査で

生息区域 広範囲に

瀬戸川と支流の清水川の計33地点と、ため池5地点で、1地点につき1～4カ所ずつ、餌の魚を入れたカメ捕獲用のかごを沈めて生け捕る。捕獲したカメのうち、ミシシippアカミミガメは神戸市立須磨海浜水族園内にある淡水ガメ保護研究施設に収容し、他の在来種は元の場所に帰す。

27日に魚住町西岡の瀬戸川河口付近で行っ

明石 瀬戸川流域で防除調査

は、計2019匹を捕獲しており、協議会は同川流域で防除効果の確認調査も実施する。

調査に当たっている須磨海浜水族園研究員の谷口真理さん(31)は「瀬戸川上流の神戸市西区でも目撃されており、今回の調査結果をもとに、自治体を超えた広域での対策につなげてもらえれば」と話す。調査は11月末まで続けられる。

【駒崎秀樹】